

事業名称	「ひきこもりハンドブック勉強会・交流会」
団体名・代表者	特定非営利活動法人 テンペラーレ 理事長 中島 薫子
協働の相手方	姫路市地域福祉課

目的	「ひきこもり」を誰にでも起こり得る社会問題として、当事者や関係者だけでなく、広く一般市民にも理解を求め、ともに学び、官民を超えた 顔の見えるネットワーク・つながりを作っていくことを進めること。引きこもり当事者やその家族・生きづらさを抱えているすべての人への支援につなげることを目的とする。
内容	第1部 講演会「ひきこもり支援ハンドブック」の読み解きと現状・共通理解促進 第2部 シンポジウム・質疑応答 テーマ「ひきこもり当事者の自律を応援！」 第3部 交流会 参加者間での意見交換会・ネットワークづくり
事業経過	100 名を超える参加者があり、活発な熱のこもった公園・報告・意見交換が行われた。 令和 7 年厚生労働省の「ひきこもり支援ハンドブック」をテキストとして、厚労省・兵庫県・姫路市担当者による講演と現状報告。民間 NPO 法人による実践報告 シンポジウムを通じて市民・支援者・行政が対話し、相互理解を深めた。 交流会では多様な立場の参加者同士が顔の見える関係を築いた。
事業の効果	第 1 部講演会では、それぞれの講師からわかりやすく詳しく学ぶことが出来た。 第 2 部シンポジウムでは 会場からも活発な質問・発言があり会場全体で共有できた。 第 3 部交流会では、肩書や立場を意識せず 自由に交流でき、課題を共有できた。 100 名以上の参加者があり、柔軟に対応したためか「無料」だったからか、少しでも途中退出・途中参加の方もいて、関心の高さを実感した。
今後の展望	・当事者への情報提供について、大きな課題を確認・共有できた ・関係者間のネットワークづくりのきっかけの一步になったと思う ・様々な課題をどのように共有し協働していくか。多重・多層・多数の連携が課題

【実施団体の事業総括・感想等】

過剰に入りきらない参加者に、課題の大きさを改めて実感した。
関心のある方が集い、交流する場を提供し課題を共有出来てよかった。
ここで出てきた様々な課題への取り組みは弱小団体では難しいし大きすぎる、小さな民間団体は、その存続だけで精いっぱいなかなか連携や、共同が出来にくい
行政や企業などのご理解やご支援を期待します。

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

姫路市には、民間団体を含めた協議会があるため、民間団体と協働していると思っていたが民間団体が主となって進めた今回の事業を通して、民間団体が感じている課題について改めて認識できた。ひきこもり支援は最終ゴールとして地域活動も一つとなっているため、民間団体と今後も協力して市民の人々のひきこもり支援の理解、社会資源の充実を進めていきたい。